広報大洲

きらめき創造　大洲市
―みとめあい　ささえあう　肱川流域都市―

大洲

2011
No.80
9

防災について考える

自然の猛威から身を守るために
今、わたしたちに何ができるのか。

突然牙をむき、大切なものを奪っていく自然災害。
９月１日は「防災の日」。東日本大震災を機に、今月号では防災について考えます。

東日本大震災（宮城県亘理郡山元町）

来　襲

東日本大震災の発生

平成23年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生しました。震源は三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130キロ付近、深さ24キロの地点で、マグニチュードは9・0という非常に大きなものでした。

これは日本国内観測史上最大規模で、世界でも4番目の規模の地震でした。

地震発生のメカニズム

地球の表面はいくつかのプレート（岩盤）で覆われていて、常に新しいプレートが作られています。このプレートが互いに接し合い、押し合う力によって「ずれ」が生じ、地震が発生します。日本列島は陸と海の4枚のプレートの境界に位置し、地震が発生しやすい構造になっています。今後30年以内に巨大地震の発生する確率は、南海地震では60％程度とされていて、東海、東南海、日向灘地震との4連動地震の発生も懸念されています。

津波発生のメカニズム

海底で地震が発生すると、海底が隆起もしくは沈降します。これにより海全体が揺らされ、大きな波となるのが津波です。

風により海面付近だけが動く波浪と違い、津波は海底から海面までの海全体が動くため巨大なエネルギーを持っています。また、津波は水深が深ければ深いほどスピードが速くなる性質があり、何度も陸に押し寄せる可能性があります。最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波が高くなることもあるため、十分な警戒が必要です。

東日本大震災（宮城県亘理郡山元町）

必要なこと、できること。

東日本大震災発生後、大洲消防署から6人の消防職員が被災地に派遣され、支援活動を行いました。支援活動の状況とともに、災害に対する思いを聞いてみました。

福岡消防士長　萬奥消防司令補　大野消防士長
亀岡消防士長　髙本消防司令補　篠崎消防副士長

―派遣期間はいつからですか？

3月14日から21日までの8日間でした。

―活動場所と従事内容を教えてください。

派遣されたのは岩手県釜石市で、主に人命検索活動に携わりました。

―被災地を目の当たりにした感想は？

正直、何も考えられない惨状でした。現場に立つまで現実と受け入れることができず、想像していた以上の光景でした。被災状況をこの目で見て、遠い外国の戦地かと錯覚に陥りました。

―被災された人たちの様子はいかがでしたか？

被災して間もないにもかかわらず、復興に向けて活気のある印象で、被災地のがんばりが感じられました。いろいろな思いがある中で、被災者のみなさんは冷静に行動していて、私たちも活動がしやすかったです。

―現地での活動状況を教えてください。

現地の消防車両・消防資機材はほとんどが津波で使用不能であったため、持ち込んだ機材あるいは散乱したがれきの中のスコップなどを現地調達して使用しました。

―被災地での活動で、特に印象に残ったことを教えてください。

余震への警戒と激務により神経と体力を消耗する活動の中で、「支援ありがとう」と手作りの看板で励ましてもらったことに、とても感動しました。

また、私たちは岩手県遠野市に宿営キャンプを張り、そこから往復して釜石市で活動を行っていたのですが、地域のボランティアが炊き出しをしてくれたお陰で、活動に集中することができました。

―南海地震の発生確率が、今後30年以内に60％程度と言われていますが、私たちに「必要なこと」はどんなことですか？

やはり、日頃からの災害に対する「心構え」を持つことが必要だと思います。市がバックアップしているから大丈夫だと考えるのは危険です。災害が起こると、職員も被災することが予想されます。誰がどこで被災するかは分かりません。ただ、想定外の災害に遭遇しても、「心構え」を持ち準備することで助かる可能性は高くなります。まずは心の準備をして、気持ちを切り替えて災害に対する備えをするべきだと思います。

発生直後、命を失うことのないように、自分の命は自分で守ることが大切です。阪神淡路大震災で

の死者の多くは、建物倒壊、家具の下敷きなど、圧死によるものでした。

―災害に対して、私たちに「できること」は何でしょうか？

「心構え」と同じく、防災訓練に参加するなど、日頃からの準備が大切です。被災地の、ある小中学校では、中学生が小学生を引き連れて避難するというマニュアルがあり、防災教育が充実していたため、幸いにして人的被害が発生しませんでした。この地域では普段から、第一に避難すること、想定を信じないこと、その時できるベストを尽くすことを子どもたちに教えていたそうです。

岩手県釜石市鵜住居町での人命検索活動

大洲市でも、自主防災組織が結成され、日頃から活発に訓練を実施するなど、災害に対する備えを行っていますが、高齢者世帯の参加が多く、残念ながら若い世代の訓練への参加が少ない印象を受けています。まずは自分の命を守る「自助」が重要ですが、地域がともに支え合う「共助」の意識が高められることに期待しています。

また災害が起こったら、通信手段が途絶されることも十分に考えられます。家族でもしもの時にどうするのか、例えば避難場所の確認や、移動方法などについて、「家族防災会議」を行って、確認することも大切です。

いつ、どこで、どんな規模の災害が発生するかは誰にもわかりません。私たちは被災地での経験を生かし、災害に対する日頃からの「心構え」と「備え」の大切さを市民のみなさんに知ってもらいたいと思っています。

防災力を高める

現在、市内には33の自主防災組織が結成されていて、災害など不測の事態に備えて、さまざまな訓練が実施されています。

自主防災組織の中でも、訓練に対する参加率の高い、大川地区自主防災組織の松岡昇平会長に話を聞いてみました。

松岡　昇平（しょうへい）　会長

「自助・共助・公助の精神で災害に立ち向かう」

大川地区自主防災組織は、平成18年1月に結成されました。大川地区は従来、水害や土砂災害が多い地域で、幾度となく災害を経験してきました。そのため、住民の防災意識は強く、地域防災訓練への参加率が高いのだと思います。

組織は区長会や婦人防火クラブなど、さまざまな団体で構成されていて、地元消防団と連携して防災力を高めるために地域全体で取り組みを行っています。

現在、特に力を入れているのが無線を使用した通信手段の確保です。阪神淡路大震災で活躍した事例を参考に、平成22年6月、大川防災無線クラブを立ち上げました。当クラブは、自主防災組織にも組み込まれ、独自に訓練や実態調査を実施しています。

例えば、大川地域の各集会所から本部となる連絡所まで、移動式の無線で通信可能であることを確認し、災害時に孤立する地区のないことが分かりました。各地区への会員の配置、施設の整備などさまざまな課題がありますが、今後、災害時における連絡網を整備していきたいと考えています。

また、自主防災組織からは、防災リーダー研修や防災インストラクター育成講習会に積極的に参加し、地域の防災リーダーの育成にも力を入れています。

災害には、防災意識の向上だけでは立ち向かうことができず、基本的な技術が必要です。また、その技術力を維持するためには、繰り返し継続して訓練を行うことが重要になってきます。

「自らの地域は自ら守る」ということを常に意識し、さまざまな防災・防犯活動を通じて安心安全な地域づくりを進めていきたいと思っています。

またこれからも、市民のみなさんが防災を考えるきっかけとなるよう、さまざまな活動をこの大川地区から発信していきたいと思います。

防災に対する基礎知識をまとめてみました。
防災力を高めるため、家族や友人と話し合ってみませんか。

Q 避難勧告や避難指示は、どんな時に出すの？

災害時での避難の呼びかけには、「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」があります。

緊急性や避難の強制力は、避難準備→避難勧告→避難指示の順に高くなります。

【避難準備】

要援護者など、特に避難行動に時間を要する人が行動を開始する段階で、人的被害の発生が高まった時、速やかに避難できるよう準備を促します。

【避難勧告】

避難行動のできる人が行動を開始する段階で、人的被害の発生が明らかに高まった時、安全のため速めの避難を促します。

【避難指示】

災害の前兆現象などの切迫した状況や、地域の特性などから人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断した時、避難を指示します。

Q 住民には、どうやって知らせるの？

避難勧告などの発表については、市の広報車や消防車両、防災行政無線などにより、該当する地域に広報します。

「大洲市災害情報メール」に登録すると、情報をメールでお知らせします。登録希望の人は危機管理課までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

危機管理課

☎㉔2111（内線351）

Q どこに避難すればいいの？

それぞれの地域ごとに、公民館や学校などの公共施設を避難場所に指定しています。

平成18年度に配布した「洪水ハザードマップ」に表示しています。また、大洲市の公式ホームページでも市内の「避難場所一覧」を掲載していますので、ぜひご確認ください。

Q さまざまな災害に対する日頃の備えは？

屋内でも屋外でも、自分の身の安全が最優先です。

【地震発生時の対応】

（屋内にいる時）

・机やテーブルの下に身を隠す。
・机などがない場合は、座布団や本などで頭を保護し、揺れの治まるのを待つ。
・あわてて屋外に出ない。

（屋外にいる時）

・カバンなどで頭を保護して、空き地や丈夫な建物の中に避難する。
・自動車運転中の時は、徐々にスピードを落として車を道路の左側に停車し、キーをつけたままその場所から離れる。
・ブロック塀・門柱など倒れる恐れのある物から遠ざかる。

【津波への対応】

・海岸で強い揺れを感じたら、注意報や警報が発令される前に、津波が来襲することもあるので高台に避難する。

【地震が治まってからの対応】

・火の始末やガスの元栓を閉める。
・身の安全が確保できたら、ドアや窓を開け避難ルートを確保する。
・家族や近所の人の安全を確認する。
・余震が発生することもあるため、倒壊する恐れのある物には近づかない。
・避難する場合には、漏電ブレーカーを落とす。
・ラジオ、テレビなどで正しい情報を入手する。

【台風への対応】

・テレビやラジオの情報に注意する。
・倒壊しそうな建物や樹木は、支柱などで補強する。
・増水に備え、付近の水路などの清掃をする。
・台風の大きさに関わらず、事前に準備・対策を立てる。
・扉や窓は閉め、鍵をかける。
・停電や断水に備え、懐中電灯や携帯ラジオ、飲料水などの準備をする。
・非常時のために、持ち出し品を準備する。
・早めに避難をするため、事前に避難場所や経路を確認しておく。